

【様式】

令和5年8月9日

令和5年度鳥取県トップアスリート（オリンピック・パラリンピアン）派遣事業実施計画

学校名：鳥取市立賀露小学校

1 ねらい

- ・パラリンピアンと車いすバスケットの体験活動を通して、スポーツの楽しさを味わうとともに、パラリンピック競技への興味・関心を高めるとともに、多様性の尊重や他者への理解を深める。
- ・パラリンピアンによる講演や実技指導を通して、スポーツに取り組む姿勢や心構えについて知り、自分のこれからの生活に生かす。
- ・夢や希望をもち、目標に向かって努力することの大切さを知る。

2 日 時 令和5年9月19日（火） 午前8時40分～午後1時00分

3 講 師 網本 麻里 パラリンピック車いすバスケット競技選手

4 対 象 3年児童53名（1組26名、2組27名）

5 日 程

時間	内容	対象学年	場所
到着 9:10	出迎え		
打合せ・準備 9:15～9:30	打合せ（校長室） 準備（多目的教室）		校長室
2校時 9:30～10:15	○挨拶 ○講演（30分） ・自己紹介 ・競技との出会い～東京パラリンピック ・夢をもつことの大切さについて ・大切にしていることや子ども達へのメッセージ ○子ども達からの質問（5分） ○挨拶	3年生	パソコン室
休憩・移動 10:15～10:30	・トイレの後、校長室で休憩・水分補給をしていただく。		
3校時 10:35～11:20	○車いすバスケットボール体験 ・車いすの説明、デモンストレーション（10分） ・車いすバスケット体験（30分） 4・5人ずつ6チームに分け、2チームずつ体験 操作練習（5分）ミニゲーム（5分）を3回繰り返す ・感想・お礼のことば（3分） ○記念写真（入れ替わりの時に両クラスとも撮影する。）	3年1組	体育館 入り口側
休憩 11:20～11:25	・体育館で休憩していただく。 ※本校職員がお茶を持っています。		体育館

4校時 11:25～12:10	○車いすバスケットボール体験 ・車いすの説明、デモンストレーション（10分） ・車いすバスケット体験（30分） 4・5人ずつ6チームに分け、2チームずつ体験 操作練習（5分）ミニゲーム（5分）を3回繰り返す ・感想・お礼のことば（3分）	3年2組	体育館 入り口側
休憩 12:10～12:25	・校長室に移動し、休憩していただく。 (児童は給食の準備)	準備ができ たら学級リ ーダーが呼 びに行く	校長室
交流給食 12:25～12:50	○多目的教室で3年生と一緒に給食を食べる。 ・いただきます（1組） ・車いすバスケのビデオを見ながら会食。（10分程度） ・網本選手にインタビュー。（5分） ※聞きたいことを事前に用意しておく。 ・児童代表お礼のことば（2分） ・網本選手の退場 ※花道を作ってお見送り。 ・ごちそうさま（2組）、片付け	3年生	多目的教室
見送り 13:00～	・校長室で談話。少し休憩していただいてから見送り。 ※見送りができる児童は玄関で見送り。 ※給食の片づけが間に合わない学年は、多目的教室から大きな声で見送り。	3年生	玄関

6 担当者 3年学年主任 田辺 史生教諭

7 準備物 【パソコン室】

- ・電子黒板、パソコン
- ・長机1台、イス2脚

【体育館】

- ・アンプ、マイク
- ・競技用車いす12台・・・ノバリアから借用

※9月15日（金）ノバリアに借りに行く（田辺、谷口、岩本）

※バスケットができるようにバスケットゴールを前に出しておく。

【多目的ホール】

- ・給食台（各教室から）机25台、イス57脚、アンプ、マイク、電子黒板、タブレット

※前日にセッティングしておく。

8 事前学習

「I'm POSSIBLE」を活用し、パラリンピックについて知る。

網本麻里選手について、インターネット等で事前学習をする。

令和5年度鳥取県トップアスリート（オリンピック・パラリンピアン）派遣事業  
事業実施報告書

学 校 名	鳥取市立賀露小学校
記載責任者	3年 学年主任 田辺 史生
事業結果概要	<p>○児童生徒の変容</p> <p>3年生は毎年、総合的な学習の時間に福祉をテーマに学習している。その中で、子どもたちは高齢者や障がいのある人についての理解を深め、だれもが暮らしやすい社会になるために何が必要か学んできた。しかし、子どもたちにとって高齢者や障がい者の問題は、自分とは違う少し遠い人の問題と思っているのではないかと感じていた。</p> <p>そこで、この授業の前にデフリンピック女子バレー日本代表の前島さんに来ていただいて手話を学んだり、今回、パラリンピック女子車いすバスケット日本代表の網本さんに来ていただいて車いすバスケットを教わったりすることにした。実際に交流したことで、実感がわき、身近な問題としてとらえる児童が増えたと感じた。人と話したり遊んだりするとき小さな違い（障がい）はあるけれど、それは、お互いの努力や工夫、社会（周りの環境）を少し変えていくことで解消することができると思う。前島さんや網本さんに積極的に話しかけたり、手話や車いすバスケットを楽しんだりする児童の姿はとても明るく、当たり前前のことを学び楽しんでいるように感じた。</p> <p>○主な成果</p> <p>来年は、パリのオリンピック・パラリンピックイヤーでもあり、障がいがあっても自分の可能性を信じて生き生きと生活している方がいらっしゃるということを知り、目標に向かって努力することの大切さを知る好機と考え、本事業に取り組んだ。パラリンピックの映像を実際に見たり、パラリンピック日本代表の網本選手に直接お会いしたりすることで、障がいのある人も自分たちも、「もっている力を最大限に発揮することで、できることはたくさんある」ということや「障がいのある人もない人も工夫すれば同じスポーツを楽しむことができる」ことを多くの子どもたちが感じたと思う。</p> <p>お礼の手紙や感想に、パラリンピックを楽しみにしていることや誰でも楽しめる車いすバスケットに興味をもち、またやってみたいと思っていることを書いた児童が多かった。実際に人と出会って話を聞いたり体験したりすることで、心の壁（バリア）がなくなったように感じる。この企画が、児童に与えた影響は大きかった。</p> <p>○課題</p> <p>オリンピックは知っている児童が多いが、パラリンピックは知っている児童や見たことがある児童は少ないので、事前学習で関心を高めてから実施することが必要だと思う。そのため、「I'm POSSIBLE」は、とても良い資料だった。</p> <p>今回来ていただいた網本さんは障がいの程度が軽く、普段の生活で困っていることは少ないように感じられた。ただ、かなり苦労して生活しておられる人もいることも児童には伝えておきたい。そして、そのような人たちが少しでも楽に生活できる社会にしていくために、何をすべきか考えさせていきたい。</p>

